

睡眠時無呼吸症候群

原因の多くは、あくびが落ち着きなし、攻撃性…

落着きなし、攻撃性…

成長遅れの恐れも

寝ている間に呼吸が一時的に止まってしまう「睡眠時無呼吸症候群」(SAS)。肥満した中高年の病気と思われがちだが、子供もかかるところ。大人と違ない、呼吸が止まつてもひどい酸素欠乏になる」とは少ないが、異常に落ち着きの無さや攻撃性などの症状が見られる。睡眠が障害されるために成長ホルモンの分泌が低下し、成長や発達が遅れる恐れも。子供の睡眠状態を観察し、激しいいびきをしているようであれば、SASを疑い、専門医を受診したほうがよい。

(篠田丈明)



西村久美医師

いびきかく子は注意

日本には正確なデータはないが、米国の調査では約3%の子供がSASという。大阪大学病院と大阪回生病院で子供の睡眠障害について診察している、重症心身障害児施設・砂子療育園(兵庫県西宮市)の西村久美医師(小児科)は「三歳から六歳の子供によく見られます。親が注意しなければならないのは、いびきをかいているかどうか。基本的に小さな子はいびきをかかないのです。注意を怠ります」。

いびきやアデノイド(喉頭・扁桃)が肥大してしまうこと。特に三歳では口腔内のバランスが悪い。西村医師は「骨格的六歳の子供によく見られます。親が注意しなければならないのは、いびきをかいているかどうか。また、非常に太った子の場合、咽頭部に脂肪が付着し、空氣の通り道をさ

らに狭くしてしまいます」と説明する。

* * *

では、どんな症状が現れるのか。睡眠中は注意が難しく、親としましては夜間の睡眠中の觀察が大切になつていて。西村医師は「もしもいびきなどがあれば、子供の寝て見える様子をビデオに録画して診察を受けるのがベスト。専門医が見れば診断に有用です」と話す。

* * *

いびきとなる激しいいびきのほか、胸やおなかの動きが激しい、「あえぎ呼吸」や呼吸停止、よだれ、夜尿、多汗など。さらに重症な場合には、うつせ寝や座ったまま寝るといった異常な体位

子供の睡眠時無呼吸症候群の主な症状

- | | |
|---------------------------|-----------|
| • いびき | • 落ち着きのなさ |
| • あえぎ呼吸
(胸、おなかの動きが激しい) | • 集中力の低下 |
| • 呼吸停止 | • 攻撃性 |
| • 异常な体位
(うつせ、寝た) | • イライラ感 |
| • 夜尿 | • 眠気 |
| • 多汗 | • 頭痛 |



変わつていていたといふことで、体力をかなり消耗する。その結果、心臓が肥大するなど循環器系の状態が損なわれてしまうのだ。

また、睡眠が障害されるために成長ホルモンの分泌が低下してしまい、「背伸びない」「体重が増えない」など成長や発達の遅れの可能性も指摘されている。

そのため早めの治療が大切になつてくる。欧米では最近、「終夜睡眠ポリグラフィー」を子供の体に装着して睡眠状態を見極めが難しく、親としては夜間の睡眠中の觀察が大切になつていて。西村医師は「もしもいびきなどがあれば、子供の寝ている様子をビデオに録画して診察を受けるのがベスト。専門医が見れば診断に有用です」と話す。

* * *

それでも、「子供の睡

眠時無呼吸症候群では、肥大した扁桃腺やアデノイドを取り除く手術をすれば、その多くが改善され、生命にかかる恐れも出ない。小さな子の手術は困難を伴いますが、早く対処する」と、合併症を引き起こし、命にかかる恐れも出ている。小さな子で一生懸命呼吸をする」と